



かせかけ^{No.29}

Okinawa Prefectural College of Nursing



C O N T E N T S

- 02 沖縄県立看護大学
2016年オープンキャンパス
- 04 看大祭
- 05 のぞいてみよう看護大学
老年保健看護実習Ⅰ
- 06 国際交流 海外研修ーハワイセミナー2016ー
台北医学大学生研修受け入れ
JICA研修受け入れ
- 08 世界のウチナーンチュ・ナースディ
第6回世界のウチナーンチュ大会
連携イベント

見て、聞いて、触れて、沖縄県立看護大学を体験しよう！

沖縄県立看護大学 2016年オープンキャンパス

オープンキャンパス

宇良 俊二 | 大学広報委員会 |

平成28年7月23日にオープンキャンパスが開催されました。教職員と在校生が協力し、未来の看護大学生へ本学の幅広い取り組みについて紹介しました。当日は晴天にも恵まれ約500人の訪問がありました。学生による大学施設の案内や各専門領域の体験コーナー、ミニ講義、先生方へ直接聞ける進学相談など多彩なプログラムがありました。大学生活の模擬体験が出来たことと思います。ご参加下さいました皆様、ありがとうございました。



↑「やってみよう!血圧測定と手洗い」コーナーより



↑「赤ちゃん教室へようこそ!」コーナーより



命をつなぐAED

安藤 胡桃 | 2年次 |

オープンキャンパスで「命をつなぐAED」のブースを担当したのは3回目でした。1年目は先輩に教えてもらってしかなかったのですが、今年は後輩に教えたり、参加者に説明をしたりしました。専門用語をいかに参加者に分かり易く伝えるかということに気を付けながら説明をしていく中で、自分自身の理解も深めることができ、1年次の時からの成長を感じることができました。



在学生とのフリートーク

長嶺 桃子 | 2年次 |

毎年学生が中心となって開設するフリートーク。今年もたくさんの方が訪れてくれました。真面目な話から、雑談まで盛りだくさん。中でも、やはり受験生の皆さんが気になるのは合格者たちの勉強方法です。学生は受験生の頃を一生懸命思い出しながら、アドバイスをしていました。また、本学の魅力でもある、先輩や後輩と仲良くなりやすい単科大学ならではの楽しさを話すと、早く大学生になりたいと目を輝かせてくれる受験生が多かったです。このフリートークを通し、学ぶ姿勢や、大学生生活の楽しさを身近に感じることができたのではないのでしょうか。

見て・聞いて・触れて!! 助産師のたまごのキャンパスライフ

吉濱 由奈 | 別科助産専攻 |

別科助産専攻では「助産師のたまごのキャンパスライフ」をテーマに、学生生活の様子や講義で作成したパンフレットなどの紹介、超音波診断装置(エコー)の実演をしました。助産師を志す高校生や看護学生など、多くの来場者の皆さんの「助産師になりたい!!!」という熱い思いにふれ、私たち学生も「助産師を目指して頑張るぞ!!!」と誓いを新たにすると同時に、力強いパワーをもらうことができました。





KANDAI festa

看大よ!寛大に 盛大に 燃え上がれ!

看大祭

第18回 看大祭

惣慶 創士 | 第18回看大祭実行委員長 |

毎年行っている看大祭。今年も多くの方にお越しいただき、盛り上がりました。実行委員会では例年と少し異なった看大祭にしたいと、「夢現太鼓」の演武を披露してもらいました。きっと新しい看大祭を見せることができたとと思います。

看大祭を運営する上で、実行委員のメンバーに多く助けてもらいました。この経験によって看護で重要なチームワークを学ぶことができたと確信しております。

「第18回看大祭」を開催するにあたりご協力頂いた皆様、誠にありがとうございました。



Welcome to『別Café』

喜納 亜美 | 別科助産専攻 |

今年の看大祭では、お茶やお菓子を楽しみながら来場者の皆様と気軽にキャンパスライフについてお話ができる『別Café』を企画し、講義・演習、実習の様子など「学生の生の声」を紹介することができました。来場者の皆様に別科助産専攻を知ってもらい、助産師への関心を持つ機会になっていることを願います。ご来場ありがとうございました。



後夜祭

金城 直人 | 後夜祭実行委員 |

毎年恒例の後夜祭が今年も開催されました。コントやバンドに加え、今年創設されたダンスサークルによる演技が行われ、会場は大いに盛り上がりました。夏季休暇を利用した出演者との打ち合わせ、機材の手配などの他に先輩や先生方からの多くのサポートのおかげで、後夜祭は大成功に終わりました。後夜祭を通じて、学年間の交流だけでなく積極性を身に付けるきっかけにもなったと思います。

2016年の後夜祭に出演・協力していただいた皆様に感謝いたします。ありがとうございました。



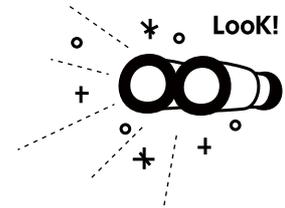
老年保健看護実習 I

真栄田きらり

| 2年次 |

老年保健看護実習Iは、高齢者の方々と関わりながら、対象者の生活や健康状態を把握し、より健康でいられるためにどうすればいいかを考える実習です。

それぞれの施設で行われているイベントやサークルと一緒に参加しながら高齢者へインタビューし、そこから得た情報を基に支援を考えます。最初は、どのように話しかければよいか悩みましたが、関心をもって会話に参加していく中で、情報収集や専門職者としての高齢者との関わり方を学ぶことができました。老年保健看護実習Iは、高齢者の特徴を捉えながら、専門職者としての姿勢や視点を学べる科目だと思います。



健康を
考える



ふれ
あう



健康を
サポ
ー
ト



国際交流

ハワイの温かさにつれ、 看護師にむけて 一步成長!

國吉 美貴 | 3 年次 |

夏季休業中の19日間、私たちはカウアイ島とオアフ島で研修を行いました。

カウアイ島では、KCC(カウアイ・コミュニティ・カレッジ)での講義、病院、医療施設の見学、ホームステイを行いました。KCCの講義では、英会話や微生物学の講義、アメリカの医療保険制度などを学びました。また、フラダンスやロミロミマッサージの講義もあり、ハワイ特有の文化にも触れることができました。人々の優しさや温かさにつれ、充実した2週間を過ごすことができました。

ハワイ大学マノア校では講義の他にも大学に併設されているシミュレーション施設を見学し、より実践的な技術を学べる環境に感動しました。

ハワイ研修に参加し、改めて日本の医療体制や看護師のあり方等を考えるきっかけになり、このハワイでの貴重な経験を大学生活や卒業後に活かしていきたいです。



Homestay

丸野 聡恵 | 3 年次 |

ホームステイは金曜日の夕方から日曜日の夕方までの2泊3日で、2人1組でそれぞれの家庭で過ごしました。私たちのホストファミリーは夫婦で暮らし、奥さんはネイティブハワイアンでこのホームステイの間、様々なハワイの言葉などを教えてくれました。

夫婦は私たちをコンドミニウムまで迎えに来てくれて夕食にはロコモコをごちそうしてくれました。夜は家にビリヤード台があったのでホストファミリー夫婦とビリヤードをして楽しく過ごしました。

2日目は奥さんが地元祭りのボランティアをしていることから、朝早くにハナレイという地域のビーチに連れて行ってもらいました。祭りは地元の人たちで地引網を行い、とれた魚をその場で調理して、フラダンスや歌を見ながら食べるというものでした。料理は日本的な味付けで食べやすかったです。ご飯を食べた後に海で泳ぎましたが、ハワイの海は沖縄の海とは違い砂がすごく柔らかく波がつねにあって、波に



揺られるという経験は初めてで、とても楽しむことができました。祭りの後は、ノースショア最端のビーチまで行き、その途中で映画の撮影地でもあった場所やタロ畑、洞穴なども案内をしてくれました。帰りはかき氷やショッピングを夫婦と楽しみました。かき氷はとても大きく二人でシェアをして食べることができました。

2日目にカウアイ島のノースショアである北側に行ったので、最終日は島の反対側

を車でドライブをしようということになりました。奥さんの出身地であるワイメアや港、滝が見えるところなどに連れて行ってもらいました。同じ島でも山があるため場所によって乾燥している地域と雨が多い地域などを実際に感じることができました。

夫婦のおかげでカウアイ島をほぼ一周まわることができました。自分たちだけでは経験することができないことをホームステイではできたのでとてもいい経験になりました。

2016年 海外研修 8/14 - 9/1

ハワイセミナーに参加しました。



台北医学大学生 研修受け入れ

山城 綾子 | 国際交流室運営委員会 |

2016年7月18日～7月29日に本学提携校である台北医学大学で老年健康管理学(Gerontology Health Management)を専攻する学生10名を受け入れ、約2週間の研修を行いました。台湾から初めて受け入れた研修生は、本学内での講義を中心に多くの老年保健看護の場で視察を重ねました。学生との交流や世界遺産首里城、美ら海水族館等への観光を通して沖縄の歴史文化習慣への理解を深め、大変充実した活発な研修となりました。

修了式後のお別れ会では台北医学大学学生が本学学生と一緒に練習した三線を披露し、カチャーシーを踊り、たくさんの写真撮影をして別れを惜しましました。

教職員と学生のみならず、多くの外部講師と関係施設の皆さまのご協力を賜り、素晴らしい研修が実現できましたこと心より感謝申し上げます。今後もこのような国際交流が継続できるよう努めます。



JICA 研修受け入れ

— 研修員と本学学生との交流 —

長堀智香子 | 国際交流室運営委員会 |

2016年7月26日に平成28年度JICA研修を受け入れ、ボリビア、パラグアイ、ウルグアイから7名の研修員が来られました。研修プログラムは、研修員が本学での研修を通して日本の看護・助産教育の理解を深め、それぞれの国に戻られてから何らかの形で現場に還元できることを期待して毎年、実施されています。今回は学生との交流をメインにプログラムを組み、ボリビア研修員の自国での活動報告と学生による大学紹介、そして意見交換を行いました。

この研修プログラムに参加することで、本学の学生も成長することが出来ており、今後も、国際交流および国際協力に貢献できる人材育成に寄与します。





第6回世界のウチナンチュ大会連携イベント

熱気に包まれ文化の拡がりを垣間見た 世界のウチナンチュ・ナースディ



永島すえみ | ウチナンチュ・ナースディ実行委員長 |

特別講演の前20分程を軽音楽部サークルが沖縄民謡を演奏して参加者を歓迎いたしました。その後の特別講演1では、宮古島出身でカリフォルニア在住の下地のり子氏が「沖縄独特の文化の中にみる健康長寿の秘訣」と題して講演をされ、沖縄はブルーゾーンの島と呼ばれ、世界でも長寿の多い地域であることなどが紹介されました。特別講演2では、古宇利島出身の玉城英彦氏が「世界で働く～他人の中に埋没しない私～」と題して世界で活躍するときの秘訣、すべての人々にとっての健康が究極的には世界の平和と安全の礎になることを話されました。玉城氏のお話は、疫学における視点、国際社会に生きることなど学問的で学生たちへのこれからの活躍へのエールでありましたが、話の随処にユーモアが織り込まれていて、60分は笑いの渦、筆者は涙と鼻汁を拭きつつで、写真を撮ることを忘れていました。昼食・交流会では学内の食堂「エンジェル」の中とその前庭にテーブルが準備され、県立芸術大学の琉舞が披露(写真下)されました。「ゆんたくテーブル」では、学生たちがアメリカの看護師資格を取得して働いている先輩たちの話に目を輝かせていました。閉会のセレモニーでは、今後へ向けての大会宣言が行われ、参加者が大講義室を退室なさるときには、軽音楽部が再度沖縄民謡を奏でて大会の余韻を胸に刻む後押しをしてくれました。



“かせかけ”とは

かせかけとは、琉球古典舞踊七踊りの一つです。総(かせ)とは紡いだ糸を巻く道具で、総掛けとは布を織る糸をこしらえている様子を指しています。沖縄県立看護大学は、国際的視野に立つ看護職者の育成をめざしています。この踊りのように丹念に糸を紡ぎ布を織って綺麗な着物に仕立てていく、その一途の心と地道にして洗練された「技術」・「感性」・「情熱」そして優しさは、「知識」の継承・創出とともに、本学の看護職者を生み育む教育・研究の原点に相通ずるものであろうと、広報誌の名称にしました。



琉球古典舞踊「かせかけ」に用いる道具

沖縄県立看護大学

〒902-8513
 沖縄県那覇市与儀1丁目24番1号
 TEL (098)833-8800 (代表)
 FAX (098)833-5133

WEB <http://www.okinawa-nurs.ac.jp>

【編集】 沖縄県立看護大学 大学広報委員会
 【発行】 (平成28年)2016年11月30日

